

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流式番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	平成25年8月16日	評価結果市町村受理日	平成25年11月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

クララ清流式番館は 1. 寝たきりにさせない 2. メリハリをつけた生活リズムの継続 3. 残存機能を活かしてできることはご自分で を合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町 3-7-10		
訪問調査日	平成25年9月2日		

当グループホームは、昨年4月「クララ清流本館」に隣接して新設されたもので、利用者も一緒に使い易いオープンキッチンや心地よい浴室等、建物の細部まで利用者本位に配慮されている。3つの事業所方針の実践により、利用者が残された能力を十分発揮して日常生活が送れるよう、自立支援に努めている。起床後の着替え・布団の上げ下ろしなどメリハリをつけた生活リズムの継続等、全職員が一丸となつての支援により、「入居前と今では顔が全く違う!」「介護度が5から3に下がった」など、ご家族から喜びの声が寄せられている。地域との交流も大切にしており、近隣の人と挨拶を交しながらの散歩も日課となっている。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「尊い存在として大切に思う心」を持って管理者、スタッフ一同、ケアに実践していけるよう努めている。	事業所理念は玄関などに掲示され、定例会などでも、理念の共有化が諮られ、職員のケアに反映されている。利用者の生き生きとした表情からも、実践されている様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や清掃へ参加している。日々の散歩のときに、ご近所の方々が笑顔で声をかけてくださり、挨拶や会話などで交流を深めている。	自治会に加入し、清掃活動、夏祭りなどの地域行事に利用者も参加している。ホームでのお茶会などの行事には地域の方を招待しており、地域との交流は大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつ相談に来ていただいても対応可能な事業所だと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っている。入居者のご家族様が安心し信頼して頂けるように、報告や話し合いを行っている。	3ヶ月ごとに開催される運営推進会議には、利用者家族、地域代表、市担当者、包括支援センター職員などが参加して、ホームの活動状況の報告に対し、意見、要望が出され、それをサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者家族に事業所の取り組みや状況を報告し情報交換する良い機会でもあるので、今後も多くの家族の参加の継続を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出など、市の担当者の要望には迅速に対応するように心がけている。	運営推進会議での市担当者、包括支援センター職員との情報交換に加え、グループホーム連絡会などに積極的に参加して、市担当者との情報交換を図り、何でも話せる関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を理解し、身体拘束はしないように努力している。身体拘束に関する外部研修の機会も捉えている。	職員の身体拘束に対する理解を深めるため、毎年外部の研修会に参加させ、その受講内容を定例会で伝達講習し職員間で共有している。玄関の施錠もせず、見守りなどで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体のチェックをまめに行っている。虐待については管理者スタッフともども理解し、言葉の虐待についても互いに注意し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については今後勉強会を開きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時、ご家族様からの質問等を含め、時間をかけ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からの意見要望は常日頃、管理者スタッフ共々聞き取り、報告し合う様にしている。運営推進会議でもその場を設け、運営に反映させている。	運営推進会議、日常の利用者家族訪問時などをとらえて、意見、要望を確認し、運営に反映している。利用者の様子を「クララ通信」として毎月届け、来訪の少ない家族にも、意見要望が出しやすいよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングもしくは日々の報告、連絡等でスタッフの意見提案を聞いている。	管理者は職員との話し合いを大切にしており、毎月の定例会の日程を全職員が参加しやすいように設定したり、直接個々に話し合いの場を設けて意見を聞くなどして、それを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の職員の状況を掴んでおり、時には面談も行い、各職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大切な外部研修は受けてもらっている。内部研修については、施設長がケア一つひとつについて親身になって指導している。資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後取り組む予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が入居された時はもちろん会話をまめに行い、要望や不安など汲み取るように努め、関係が作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートなどを活用しながら、ご家族の不安や要望を汲み取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討のご本人に実際に会いに行き、見極めの努力をしている。緊急の入居についても、体験入居という仕組みを活用しながらご本人納得の上でのサービス利用につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員、暮らしを共にするものとして、日々、日常的な活動を入居者様と共に行って、関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご面会や電話があった時などホームでの様子をお伝えし、ご本人様と十分時間を取って頂くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内での生活が安定するのを前提に訪問しやすい雰囲気づくりによって支援に努めている。	知り合いの方がみかんや柿等を持ってきてくれたりしている。また幼い頃から慣れ親しんだ節句や祭りなどを大切に捉え、節分や月見等を通して季節の移ろいや馴染みの風習を楽しんでもらえるよう、毎月の行事に組み入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話を尊重し、自分からお話しされない方も輪に入れるよう、職員が声掛けしたりとコミュニケーションの橋渡しをし皆様と一緒に楽しめる場作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望のあったご家族様からの相談があれば対応したいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、一人ひとりの思いや希望を聞き、職員、施設長、管理者がご本人にとっての最善は何かということをお話し合っている。	入居前に思いや意向を十分に聞き、「本人はここで大丈夫か」「無理強いはしていないか」などを判断し、「本人にとって最善は何か」をモットーに、職員間で常に話し合い意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から初めにお聞きしている。入居してからも新しい情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご入居者様のご様子はスタッフ間での連絡、報告、また記録を見ながら現状を把握して対応するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、ご家族様の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	1～2ヶ月毎の定期的なモニタリングを行い、職員間での話し合いと、家族からは来所時や電話で希望や意向を伺い、現状に即した介護計画を作成している。	アンケートでは一部のご家族が、説明は受けたが話し合っていないと回答されている。作成された介護計画について、ご家族への説明や話し合いの方法について再検討をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアに対して気づいた事などを職員同士で情報を共有し、管理者と話し合い、実践している。個別記録への記入も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎の支援などご本人ご家族様の状況に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに参加したり民生委員の方に定期的に訪問して頂きゲームを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望の方は、その医療を受けて頂くようにしている。ご家族が受診対応できない時には受診付き添いを行っている。	複数の協力医療機関があり、そこがかかりつけ医だった方が多く毎月各2回ずつの受診や、歯科医来診等で医療の継続が図られている。耳鼻科や眼科などの専門医受診には家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックの情報など気づいた点を詳しくかかりつけ医に伝え、適切な受診を受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後に施設での生活がスムーズにいくように、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者と共にご家族様と話し合いを重ね、共有を図っている。	入居時に、重度化した場合や終末期におけるホームの方針を説明している。新設で入居間もない利用者ばかりで終末期の方はいないが、「最後の時、一緒にいてね。」と職員に究極の希望を託す利用者もいて、深い信頼が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや現場で初期対応の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力を元に、消防訓練を行っている。	自主訓練を含め年2回の避難訓練は、消防署の指導と地域の方々の協力を得て、本館・式号館合同で実施している。消防署直結の通報設備や警備会社とも契約し、災害対策に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念のもと、常に心掛けている。	利用者さんは「人生の先輩である」との敬いの気持ちをもって、個々の人格を尊重した言葉かけや対応をしている。「自分がそうされたら嫌だね」「自分がその方だったらどう思う？」などの思いを行動指針においている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらが一方向的に決めるのではなく、本人の意思確認をし、難しい時には決定しやすい問いかけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす時間が必要な時には尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはご自分で出来る方にはゆっくりと時間を掛けて行って頂いている。肌のお手入れなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、食事、片付けと、ご利用者様、職員一緒に行っている。	殆どの方が準備や片付け等職員と一緒にっており、献立作りに参加することもある。ランチョンマットに持参の馴染みの器、そして状態に合わせた食事を皆で楽しく戴いている。庭先で採れたトマト・葱なども一品の仲間入りをしている。	和気藹々として食事作りや野菜の収穫、掃除など職員と一緒に出来る方が多く、グループホーム本来の生活が出来ている。今後もこの生活がなるべく長く継続出来るよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録している。水分摂取には特に力を入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを行い、ご入居者様の力に応じて支援している。入れ歯の手入れも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録しながら、表の確認やご入居者様のご様子を見ながら、トイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表の活用と様子の観察から、トイレ誘導しており、おむつ使用の方はいない。職員ミーティングでも布パンツ推奨の排泄の自立支援を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、飲食物の工夫、水分摂取、運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。入浴を楽しんで頂けるよう会話をしながら行うよう心掛けている。	入浴はマンツーマンの会話の機会でもあり、週2～3回の入浴を楽しみにしている方が多い。季節により、菖蒲湯や柚子湯などを楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来る限り、体を動かしたり、布団干し、シーツ交換などをして夜間は安心してお休み頂けるよう心掛けている。 もし日中体調が優れない場合は休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し、スタッフは一人ひとり間違いなく薬を服用する様に声を掛け合っている。薬が変わった時は体調の変化も気を付けて見ている。入居者様が薬について知りたい場合、説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々散歩やゲームなどを行い、その中で会話をし、好きなことを把握するよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に当たるため、花を見に行ったりと、散歩を雨の日以外は必ず行っている。ご本人の外出の希望があった時にはご家族の協力をお願いしている。	外気浴を兼ねながら、散歩を日課にしている。近くの公園には桜を始め季節毎の花々が咲き、散歩の楽しみになっている。途中野菜などを戴いたり地域の方々とはすっかり顔なじみである。年1回のバス旅行も喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所管理。今後買い物に行った時にはご本人が支払いを出来るような支援を行いたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中お見舞いなど手作りをして送っている。ポストへの投函はご入居者様と一緒にしている。手紙のお返事を書く支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地よく過ごして頂くよう、毎日清掃と換気は必ず行っている。リビングには季節感のあるものを飾りにしている。	天窓からの採光が居間全体に明るい雰囲気を出している。動線が考慮されたホームは皆で囲めるオープンキッチンや、いつでも歩行コースになるように廊下は長く広めに配置されており、壁には笑顔いっぱいの行事等の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にもソファがあり、自由な交流ができるように心掛けたり工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時に、使い慣れた家具や衣服などを居室に置いて頂くようお願いしている。食器も使い慣れたものを持ってきて頂いている。	花の名前が付けられた居室は、使い慣れた家具や衣類などが配置されている。起床後は寝間着から日常着に着替える、布団の上げ下ろしなど、何気ない普段のメリハリのある生活が営まれるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレだと分かるように目印をつけている。椅子にもご自身の座布団を置き、わかりやすくなっている。		